

周辺との関係からみた街区公園の利用実態に関する研究

熊本大学 工学部 学生会員 ○宮田比奈 熊本大学 正会員 星野裕司
熊本大学 正会員 増山晃太

1. はじめに

1-1. 研究の背景, 目的

街区公園は、1956 年の都市公園法制定をきっかけに、量を重視した画一的な整備が急速に進められてきた。近年では、人々のライフスタイルの多様化を背景に、従来の画一的な整備からその地域のニーズに合った公園づくりが自治体に求められている¹⁾。そうした多様なニーズに応えるためには、街区公園だけでなく周辺環境も考慮することが重要だと考える。一方で、河川の利活用に関して 2009 年にかわまちづくり支援制度が策定されるなど「まち空間」と「河川空間」が融合し地域の賑わいを生むことが推進されている²⁾。河川空間の利活用促進のためには、河川管理用通路だけでなく、それに接する敷地や建物の利用実態を含めた一体的な空間としての検討の重要性が述べられている³⁾。

そこで本研究では、沿川空間にある複数の街区公園に着目し、他の周辺環境の影響も含めた利用実態の特徴を把握する。さらに多様な利用がみられた街区公園に注目しより詳細な利用実態を周辺環境、空間特性、管理運営の視点から整理を行うことで、沿川空間を含む周辺環境と街区公園の一体的な整備への課題と整備促進への方策を論じることを目的とする。

1-2. 研究対象・方法

対象地の選定は熊本市内を流れる一級河川、二級河川の河川管理用通路から公園内への利用が可能であること、公園の位置する用途地域が住宅系に該当することを条件として行った。その結果、対象地として白川河川沿いの計 7 か所の街区公園が選出された(図-1)。

研究方法は、目視及びビデオ撮影を用いた観察調査である。10 月 18 日(日)、10 月 19 日(月)の 10 時 00 分、16 時 00 分、18 時 00 分の計 3 回、各 30 分間記録を行った。

2. 各選定対象地の利用実態と考察

観察調査では、利用者数、属性、利用アクティビティの記録を行った。全体の傾向として、3 回の調査のうち 16 時 00 分～16 時 30 分の時間帯が最も利用が多



図-1 選定対象地全体図

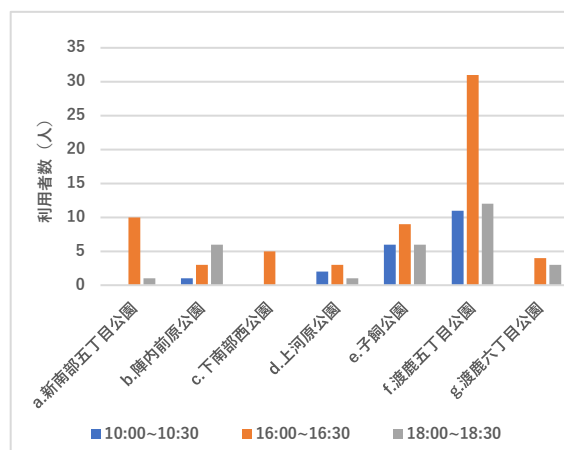


図-2 利用者数 10月18日(日)

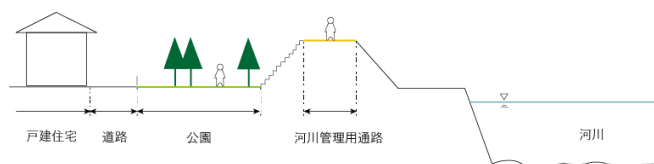


図-3 断面図 (e. 子飼公園)

いことがあげられる(図-2)。これは、この時間帯になると 10 歳未満から 10 代の子供による遊びの利用が増えるためと考えられる。また 18 時 00 分～18 時 30 分では「通過」の利用が最も多い公園が多数みられた。

以上の結果をもとに、各街区公園の周辺環境が及ぼす利用実態へ影響を整理した。特に e. 子飼公園では、周辺環境として「河川管理用通路」の他に「学生住宅街」の要素があげられる。利用実態調査では 7 公園の中で唯一、休日・平日ともに「通過」の利用が最も多い結果が得られ、その中でも河川管理用通路と公園間の通過が多くみられた(図-3)。また、利用者の属

性では他の対象地に比べて 20 代の利用が多く、「学生住宅街」の影響が大きいと考えられる。

また、f. 渡鹿五丁目公園では、周辺環境として「河川管理用通路」の他に「大学キャンパス」や「戸建て住宅街」の要素があげられる。利用実態調査では利用アクティビティで観察された「トレーニングをする」,

「通行する」などの多くは、河川管理用通路の利用のついでとして行われており、「河川管理用通路」の影響が大きいと考えられる。また、この公園では、他公園と比較して利用者数と利用アクティビティの種類ともに最も多く観察されており、この公園では多くの人々により多様な利用が生まれていると考えられる。

3. 多様な利用がみられた街区公園の利用実態

3 章では、選定対象地の中でも最も多くの利用者により多様な利用がみられた f. 渡鹿五丁目公園に注目し、より詳細な利用実態を示す。渡鹿五丁目公園は、熊本市中央区渡鹿に位置する面積 1435 m²の街区公園である。河川堤防の斜面を利用したすべり台や河川堤防側に空間が開けていることが特徴である。また、公園愛護会会長によって毎日 9 時 00 分、17 時 00 分に砂場をはじめとした公園の管理が行われている。この渡鹿五丁目公園に対して観察調査とヒアリング調査を行い、2 章の観察調査に加え、動線や利用意識などさらに詳細な利用実態を明らかにした。調査概要を以下に示す (表-1)。

観察調査で得られた公園周辺から公園を利用する動線を任意活動、必要活動ごとに示した (図-4)。休日には、公園西側の開けている河川管理用通路から入り、公園中心の広場を通過して、東側の出口に抜けていく動線が多くみられている。この広場では「通過」や「遊び」などの利用が多く行われ動線が複雑に交じり合うことで、他者同士のアクティビティも生じている。平日は東側の入口と橋側間の動線が主に観察された。

次にヒアリング調査では、休日 7 名、平日 4 名のデータが得られた。利用目的の項目では、「公園内の環境が他の公園と比較してきれいであるから」という管理・運営に関する意見が多数みられた。他には、「すべり台が特徴的」という空間要素に関するもの、「河川敷を散歩するついでに利用する」という周辺環境に関するものもみられた。

4. おわりに

本稿では、複数の街区公園に対して利用実態の特徴

表-1 調査概要

調査	日程	時間帯	天候	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)
観察調査	【休日】11月23日 (月)	16:00~17:30	曇りのち晴れ	15.7	8.9
	【平日】11月25日 (水)	16:00~17:30	晴れ	19.3	9.7
	【休日】11月29日 (日)	15:30~17:00	晴れ	13.6	4.3
	【平日】12月2日 (水)	15:30~17:00	晴れ	15.7	5.0
ヒアリング調査	【休日】11月21日 (土)	16:00~17:30	晴れ	20.9	8.9
	【平日】12月4日 (金)	15:00~16:30	晴れ	14.3	3.3
	【平日】12月8日 (火)	15:00~16:30	晴れのち曇り	13.3	4.7

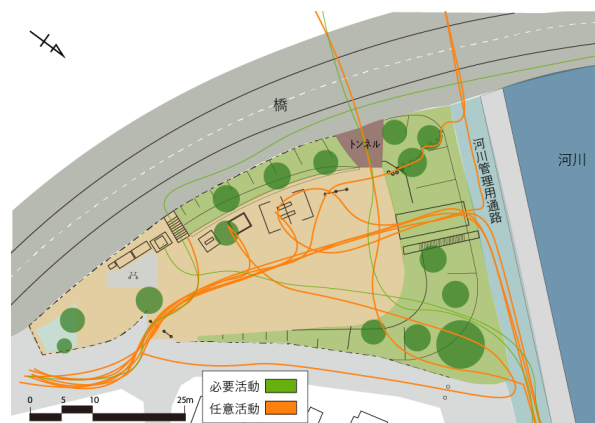


図-4 渡鹿五丁目公園 動線 11月23日 (月)

を把握し、さらに多様な利用がみられた街区公園に対して、より継続して詳細な利用実態調査を行った。今後は、3 章で得られた渡鹿五丁目公園での利用実態の結果より、渡鹿五丁目公園でみられた多様な利用の要因を周辺環境、空間要素・空間構成、管理・運営の3つの視点から分析を行っていく。また、これら3つの視点同士の関係性についても考察を行う。以上の考察を通して改めて選定対象地である 7 公園を振り返り、沿川空間を含む周辺環境と街区公園の一体的な整備への検討を行う。

【参考文献】

- 1) 呉埕錫, 木下剛, 池邊このみ「公園再整備における公園資産の活用と利用満足度との関係に関する研究」ランドスケープ研究 77(5), 2014
- 2) 国土交通省水管理・国土保全局 かわまちづくり支援制度の概要
https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000093.html アクセス日 2021 年 1 月 6 日
- 3) 北村佳恋, 後藤春彦, 高嶺翔太, 馬場健誠, 林書嫻「河川管理用通路と沿川建物の特性の関係性に関する研究 -江東内部河川における西側河川を対象として-」都市計画学会 都市計画論文集 53 巻 3 号 pp495-502, 2018